

災害が来ても安心な街に！

牛久市障害者連合会災害プロジェクト

広報うしく市民特派員 杉井 智子

■牛久市障害者連合会って？

牛久市障害者連合会は、牛久市内を拠点に活動している障害者グループのネットワークです。障害の種類や年齢はさまざまですが、交流や研修を通して、地域の中で自分らしく生き生きと暮らせるように活動しています。(25ページに関連記事)

■災害プロジェクトが始まった！

阪神淡路大震災以降、大きな災害が立て続けに起こって、連合会の話し合いの中でも災害時のことが話題に出ることが多くなりました。

障害があるために、一人では避難できない、情報が得にくい、病気があるために特別なケアが必要…など災害が起こったときに心配なことがたくさんありました。

そこで、平成18年度に障害者の災害対策についての講演会を開催。これがきっかけになり、災害に備えて何をすればいいのかを考える「災害プロジェクト」がスタートしました。

■災害プロジェクトの3つの柱

災害時に対する不安はいっぱいでしたが、まず自分たちができることから始めよう！と3つのことを始めました。

- ①市の災害時の対策を勉強する。
- ②地域の災害時の取り組みを知る(行政区ごとの避難所調査)。
- ③地域に出て行って、地域の人に自分たちのことを知ってもらおう。

■避難所調査から分かったこと

地域の災害対策を知るために、いくつかの行政区にお願いして、第一次避難所となる地域の自治会館を見せていただきました。同時に区長さんや民生委員さんから、地域での災害に対する取り組みを教えてくださいました。行政区ごとに、さまざま工夫をしていました。

- ・自治会館を使いやすいようにバリアフリーにしている(右下写真)
- ・行政区の人々が仲良くなるための取り組み(お祭りなど)をしている

- ・災害ボランティアの募集をして、人材を確保している
- ・行政区独自の様式を作って、災害時に支援を受けたい人の情報を得ている
- ・自主防災組織を作って、定期的な災害について話し合っている



避難所調査から、どのような避難所が障害のある人にも過ごしやすいのかが少し分かってきました。また、地域の方のお話を聞く中で、建物や設備などのハード面だけでなく、地域の人間関係が何より大切だということに気付きました。外に出たり、自分のことを知ってもらうことに抵抗がある障害者も多いのですが、積極的に地域の中に出て行くことが必要だと思いました。

■災害時に備える

避難所調査から分かったことを元に、これから、障害者(災害時要支援者)であることが一目で分かる目印作り、自宅内の整備、障害者一人

ひとりの災害カルテ作り、自宅から避難所までの避難訓練などを行っていく予定です。

うれしいことに、牛久市内では、聴覚障害者へのボランティアグループの方が中心になって、災害時の障害者支援ボランティアグループ「ほえみ救援隊」ができました。

障害のある人のための災害対策が、災害弱者と呼ばれる高齢者や乳幼児にも応用できることがあるでしょう。災害時にも安心して暮らせるための工夫を障害者連合会も考えていきます。

9月には左記の行事を行います。区長さん、民生委員さん、地域の皆さん、ぜひご参加ください。

障害者の災害対策

「私たちに今できること

—災害時に安心な街に—

日時 9月29日(土)午後1時30分～4時

場所 市保健センター研修室(2階)

内容 ①避難所調査報告

②中学校区ごとの地域の方と障害者の交流会

※託児あり(要申し込み)。手話通訳あり。

問い合わせ 牛久市障害者連合会事務局

(市社会福祉課内) ☎873-2111内線1716